

みなと色、ロマン旅。

いちき串木野市



「どこにもない。」を探しに行こう！

あの日、海の向こうへと旅立っていった人がある。
 あの時、波を越えて渡ってきたものがある。
 出会いと旅立ちを見守り続けてきた港町・いちき串木野。
 新しいもの、懐かしいもの、この町は、いつも発見にあふれている。
 歴史に触れ、文化を感じ、潮風と遊び、新旧グルメに舌鼓を打つ。
 ここにしかない、あなただけの心地よい刺激と、
 心からのリラックスをお楽しみください。



詳しくはコチラ
<https://ichiki-kushikino.com>



薩摩藩英国留学生記念館
 SATSUMA STUDENTS MUSEUM



鹿児島県いちき串木野市羽島4930番地 TEL 0996-35-1865 <http://www.ssmuseum.jp>

【開館時間】10:00～17:00 【休館日】火曜日（火曜日が祝日の場合は翌日） 川内駅・串木野駅から無料送迎バス運行【要予約】
 【観覧料】大人（高校生以上）300円 小人（小・中学生）200円 ※団体割引（20名以上）、障がい者手帳を保有するお客様は一律50円引き



守ることでは、創れない未来があった。



守るひと
 Hisanari Machida
 EXHIBITION 2023

薩摩藩英国留学生記念館 令和4年度特別企画展

町田久成展

—— ご好評につき期間延長！ ——
 2023.8.31^{THU}まで
 会場：薩摩藩英国留学生記念館

町田久成

1838 | 1897



芸術や文化なくして、平和と呼べるのだろうか。
富国強兵の時代に、心の豊かさという価値を求めて。

時代が江戸から明治に変わり、文明開化の名の下に急激な西洋化が進む中、日本の歴史的文化財は危機的状況を迎えていた。また神仏分離による廃仏毀釈の波は全国に広がり、仏像をはじめとする仏教芸術品が各地で焼き払われたり安価で海外へと流出していった。この時代の流れに異議を唱え、日本の文化財の価値を守った一人の薩摩人がいた。彼の名前は町田久成。薩摩藩の名家に生まれた彼は、若くして江戸で学び、薩摩スチューデントを率い英国へと渡った。帰国後は、明治政府の官僚として外交に従事するも不条理な左遷の憂き目にあう。町田久成の博物館建設の夢はここからスタートした。日本各地に残された古器旧物の文化的・芸術的な価値を後世に伝えるため、時に私財を投じ全力を尽くした。150年前の1872年、現在の東京国立博物館の礎となる、恒久的な展示を目的とした日本初の博覧会を湯島聖堂で開催。同郷の大久保利通のサポートを受けながら、1882年には上野の森に日本初の博物館を誕生させた。しかし久成は初代館長に任命されるも直ぐに辞職。突然、仏門に入り、59歳の生涯を終えるまで、滋賀の三井寺寺院・光浄院の住職を務めた。町田久成は、何を守り、令和の時代に何を伝えようとしたのだろうか？



東京国立博物館 本館

その男には、150年後の
日本が見えていたのか。
日本初の博物館を創設した男の
DNAを求めて。

2022年、創立150年を迎えた日本最大級の博物館、東京国立博物館の中庭にある初代館長・町田久成の胸像。日本を代表する彫刻家・中村晋也作の胸像は、町田久成の子孫によって2016年に建てられている。「町田久成展」では、久成ゆかりの地を、子孫とともに訪ね、様々な形で久成の遺伝子を受け継ぐ人々の生の声を集めたドキュメンタリー映像とパネル展示で、久成が本当に守りたかったものを追いかけている。



古今珍物集覧(部分)
東京国立博物館蔵 出典: ColBase

Hisanari
Machida

EXHIBITION 2023